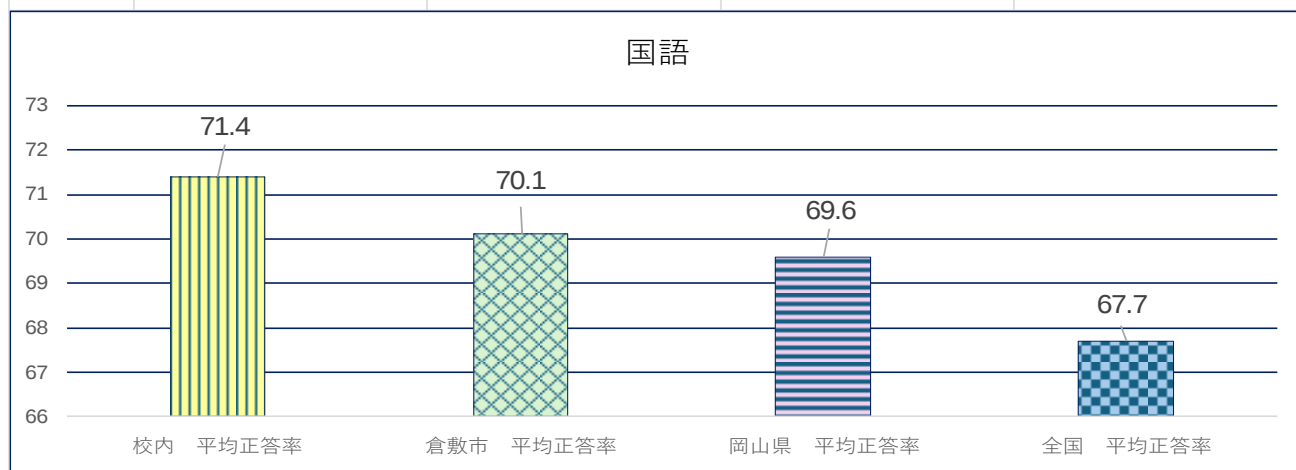


令和7年度岡山県学力調査（3年生～5年生）の結果のお知らせ

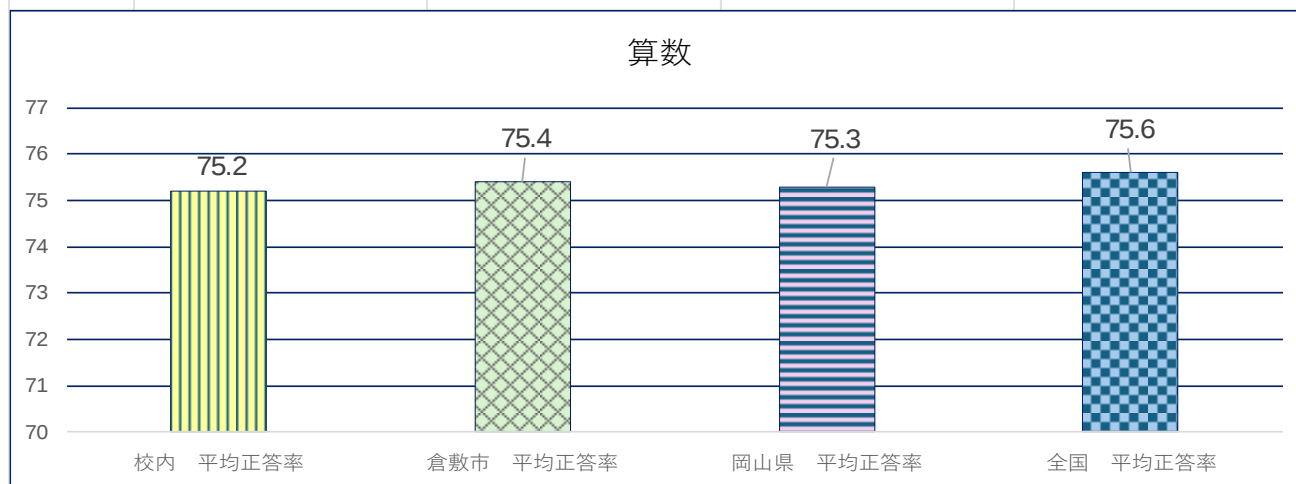
今年度4月末に行われた「岡山県学力調査」の結果が公表されました。今回の学力調査結果をもとに、本校では児童の課題を把握し、これからの学習指導及び生活指導に生かすなど、有効に活用していきたいと考えています。3年生～5年生の結果概要及び全体の傾向は次の通りです。

3年生

	校内 平均正答率	倉敷市 平均正答率	岡山県 平均正答率	全国 平均正答率
国語	71.4	70.1	69.6	67.7



	校内 平均正答率	倉敷市 平均正答率	岡山県 平均正答率	全国 平均正答率
算数	75.2	75.4	75.3	75.6



国語科は平均正答率が全国平均、岡山県平均、倉敷市平均より約1～4割上回り、算数科は市、県、国とほぼ同じでした。

国語科では、事柄の順序など情報と情報との関係について読み取ったり、伝えたいことを明確にして内容のまとまりがわかるように文を書いたりすることがよくできていました。この3年生は入学時以来、校内研究で国語の読解に取り組んできていることの成果の一端が出ているとすると喜ばしいことです。

算数科では、基本的な加減や積算の理解は進んでいます。一方、図形の問題では定規を正しく使って基本的な図形を描く、立体図形の面や辺の数などを限られた情報から推測するといった問題で課題がみられました。

○国語科における成果

- ・ 事柄の順序など情報と情報との関係について読み取ること
- ・ 伝えたいことを明確にして内容のまとまりがわかるように文を書くこと

●国語科における課題

- ・ 基本的な漢字の読み取り

○算数科における成果

- ・ 数の大小と不等号の意味を理解していること。
- ・ 加法の結合法則を用いた式の表し方を理解している。

●算数科における課題

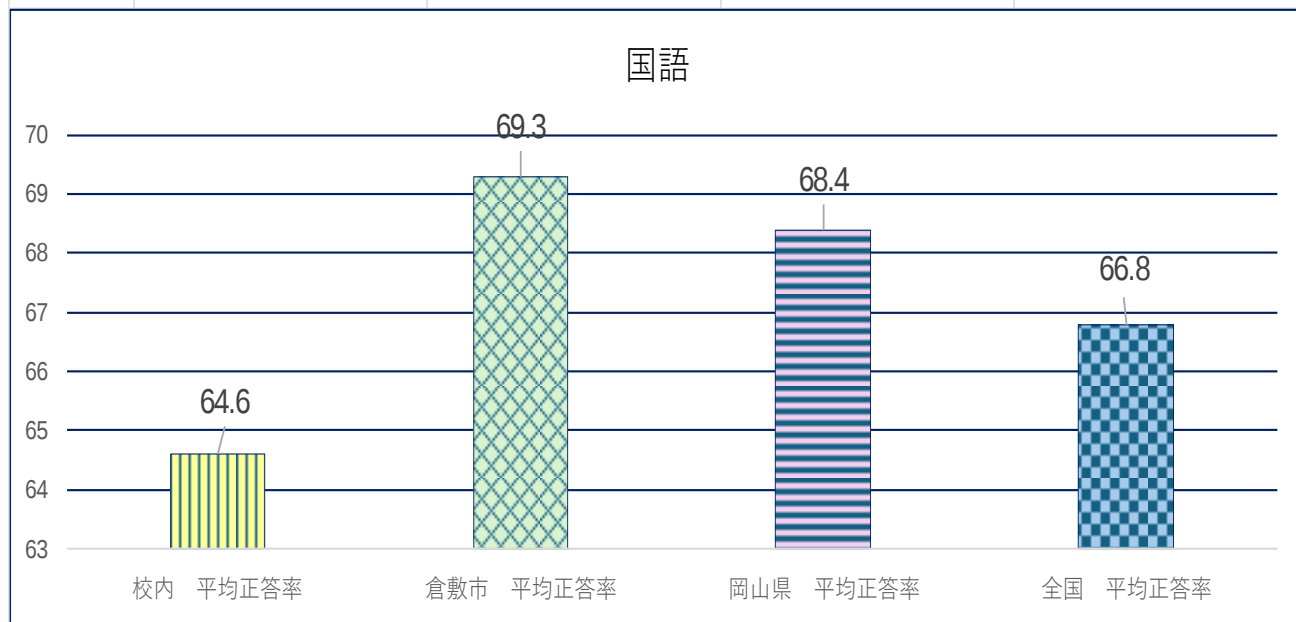
- ・ 基本的な図形の作図と頂点、辺の数などの基本的な知識
- ・ 問題場面理解からの立式およびなぜその式にしたのかの説明

学校としては、次のことに取り組んでいきます。

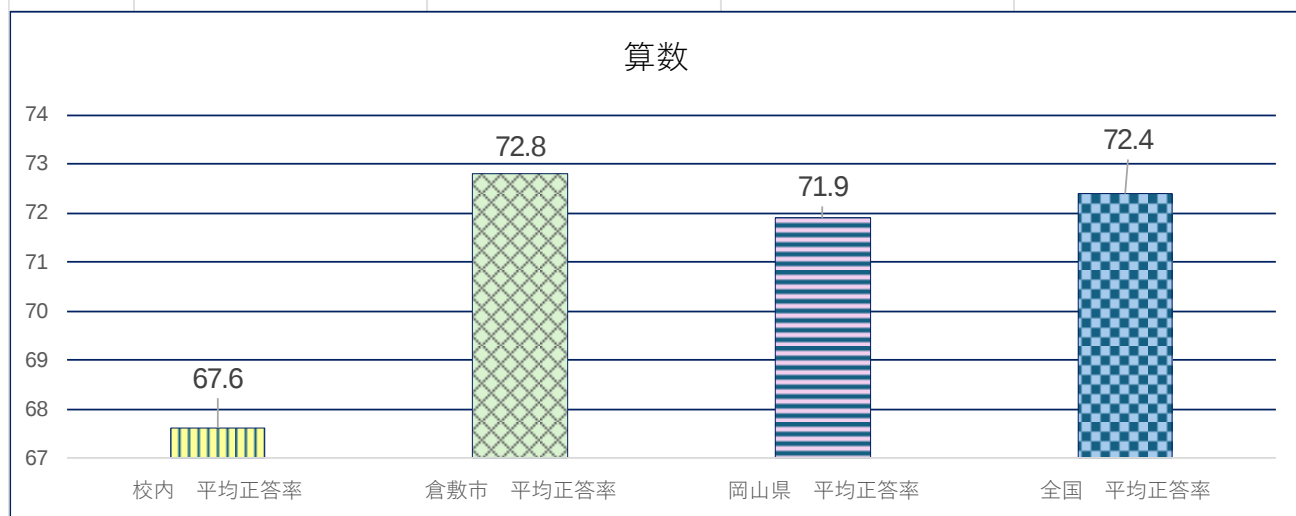
- ① 宿題やチャレンジタイムでこれまでに履修した漢字や計算等の基本的な内容の反復練習を繰り返し行い、学習の基礎となる力を引き続き伸ばしていきます。定着の度合いの違いによって個別に適切な課題を課すことで、主体的、意欲的な学習を促します。
- ② 国語科のみならず、すべての教科で、自分の考えを話したり書いたりする活動を重視していくようにします。
- ③ 図形の学習では今まで以上に実際に描いたり測ったりする活動の量を増やし、体験的な「数学的活動」の充実を図ります。
- ④ 平素の授業においては、引き続き学習のめあてや振り返りを授業の始めと終わりに位置付け、児童が学びの成果を実感できるようにします。

4 年 生

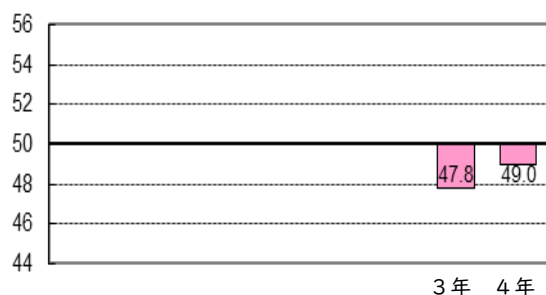
	校内 平均正答率	倉敷市 平均正答率	岡山県 平均正答率	全国 平均正答率
国語	64.6	69.3	68.4	66.8



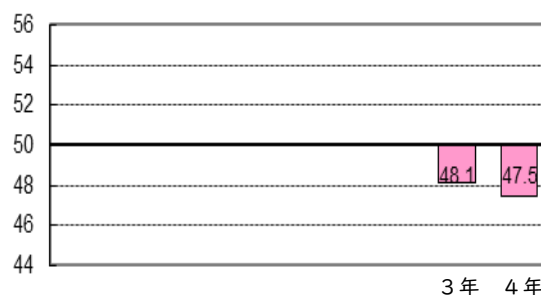
	校内 平均正答率	倉敷市 平均正答率	岡山県 平均正答率	全国 平均正答率
算数	67.6	72.8	71.9	72.4



同一集団の学力推移・標準スコア（国語）



同一集団の学力推移・標準スコア（算数）



50が全国平均ライン

正答率でみると、残念ながら国語科も算数科も市、県、国より2～5割下回りました。昨年度の結果からみると、国語科は1割程度全国平均に近づき、算数科は逆に1割ほど差が広がりました。

国語科では、昨年度の結果に引き続き、漢字を読むこと、書くこと、筆順が国、県、市各級の正答率から大きく下回っていることから、これまで学習してきた文字についての復習と定着が引き続きの課題となります。また、他者の発言や文章の要旨をまとめ、表現するといった問題についても課題がみられました。さらに、段落ごとに求められた内容を記述することにもつまづきがみられました。

算数科では、掛け算、割り算で、1桁であれば正確に計算できるが2桁以上となると誤答が目立ちました。より一層の基本的な計算力の向上が求められます。また、「Aの数量はBの数量の何倍か」といった数量関係の理解にも課題がみられました。そして、昨今増えてきている、単に答えを尋ねるだけでなくその答えであることを式、数、言葉を使って説明するという問題にもスキル不足がみられます。

○国語科における成果

- ・主語と述語との関係について理解していること
- ・与えられた条件に即して一まとまりの文章を書こうとする意欲

●国語科における課題

- ・履修済みの漢字の読み書き
- ・中心となる語や文を見付けて要約して簡潔な文で表現すること
- ・段落ごとに内容を考えて文章を書くこと

○算数科における成果

- ・数の相対的な大きさについての理解
- ・小数や分数の概念と基本的な計算

●算数科における課題

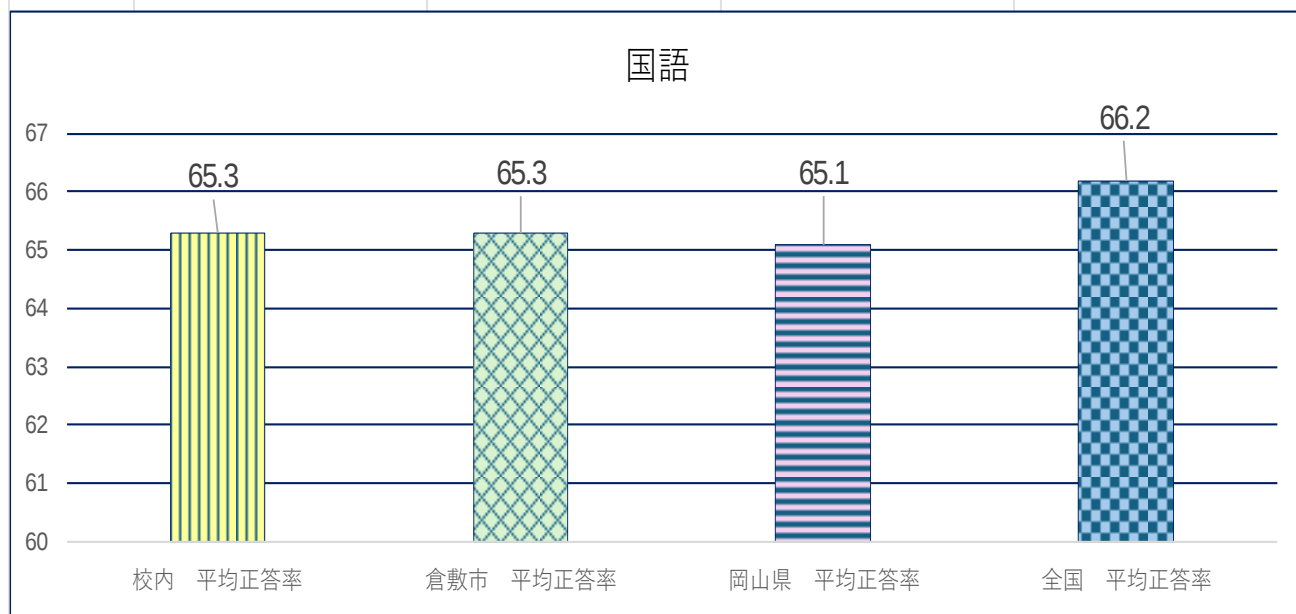
- ・二桁以上の掛け算、割り算の正確な計算
- ・「倍」の概念の数量関係
- ・コンパスなどの用具を正しく使い二等辺三角形など基本的な図形を正しく作図すること
- ・答えを出すに至った思考を、言葉や数、式を使って説明すること（数学的な論説）

学校としましては、次のことに取り組んでいきます。

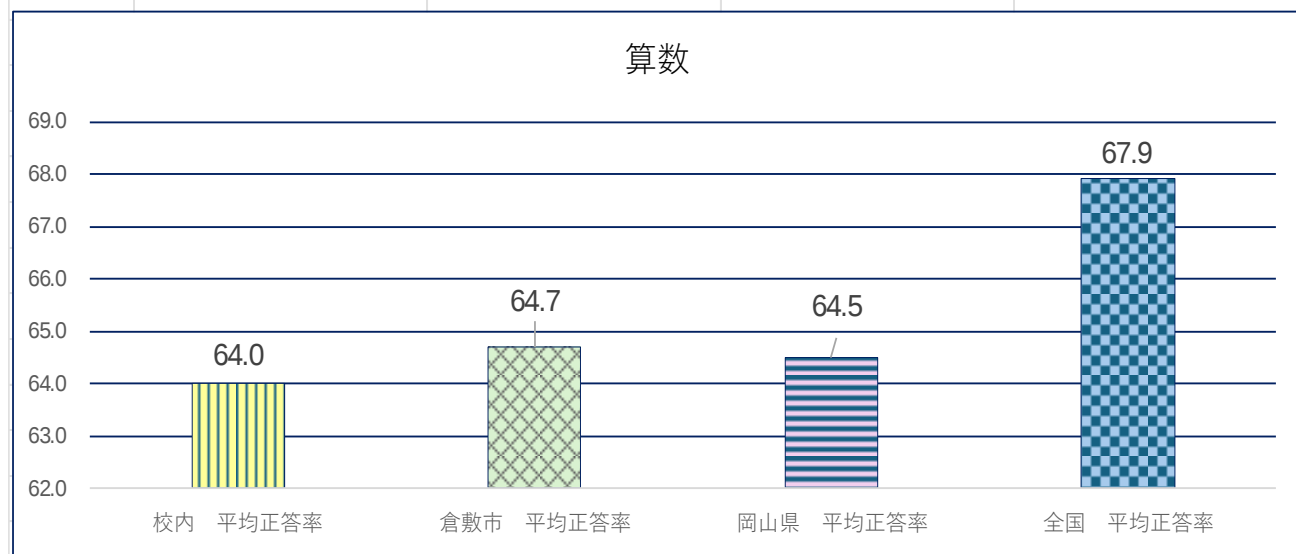
- ① 宿題やチャレンジタイムでこれまでに履修した漢字や計算等の基本的な内容の反復練習を繰り返し行い、学習の基礎となる力（特に漢字の読み書き）を伸ばしていきます。
- ② 平素からひとまとまりの文の要旨を端的に要約する活動を多く取り入れ、表現力も培っていきます。
- ③ 平素の授業においては、計算や作図などを丁寧に細部まで留意してやりきる習慣をつけていくようにします。
- ④ 引き続き学習のめあてや振り返りを授業の始めと終わりに位置付け、児童が学びの成果を実感できるようにします。また、根拠を明確にしながら説明したり、振り返りなど自分の言葉で記述していく機会をさらに充実させたりして、学習の成果が高まっていくように努めます。

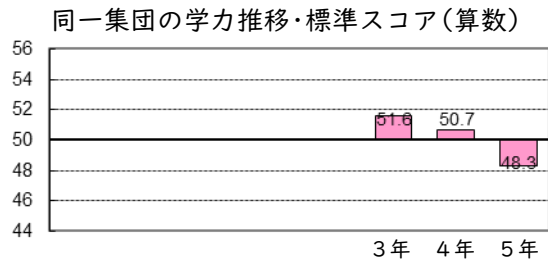
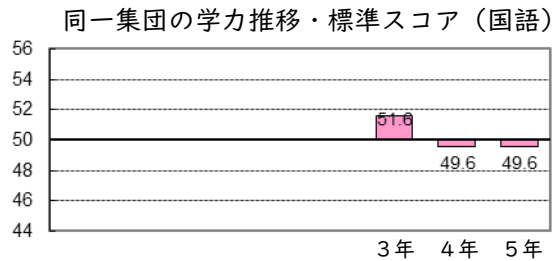
5 年

	校内 平均正答率	倉敷市 平均正答率	岡山県 平均正答率	全国 平均正答率
国語	65.3	65.3	65.1	66.2



	校内 平均正答率	倉敷市 平均正答率	岡山県 平均正答率	全国 平均正答率
算数	64.0	64.7	64.5	67.9





50が全国平均ライン

平均正答率をみると、国語科は国より約1割下回るものの、県、市とはほぼ同じ水準でした。算数科は、県、市とはほぼ同水準ながら、全国平均からは約4割下回りました。算数科は3年時、4年時は比較的良好な結果だったものが、今回の調査では低下が目立つ結果となりました。

国語科では、漢字を書く問題で正答率が伸びず、中には県平均から17割も低かったものもあり、学年相当の漢字の習得が必須の課題の一つです。自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くことには抵抗感が低く、与えられた条件に即して書くことができていましたが、2つ以上の事例の内容を要約してひとまとまりの文を書く問題では正答率より無回答率が高かったということで、課題が浮き彫りとなっています。

算数科では、基本的な計算では割り算で「あまり」を出したり、割り切れるまで計算したりするといった場合に応じた計算の正確性に課題が見つかりました。また、分度器を使って角の大きさを測る問題やコンパスと定規を使って作図する問題では、何度も学力調査で出題されて校内でも何度も取り上げて指導してきたのにも関わらず、正答が5割に達しませんでした。図形については3、4年生も課題となっており、定規、分度器、コンパスなどの用具を適切に使い、正しく計測、作図するスキルの獲得を学校の取組として行う必要性があります。

○国語科における成果

- ・修飾語の機能と役割についてはよく理解している。
- ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くこと
- ・課された条件に即して文章を書くこと

●国語科における課題

- ・学年相当の漢字の習熟
- ・2つ以上の事例の内容を要約してひとまとまりの文を書く

○算数科における成果

- ・伴って変わる2つの数量の関係を式に表すこと
- ・小数や分数の概念理解と正しい計算力

●算数科における課題

- ・場合に依じた割り算の正確性
- ・基本的な図形の作図
- ・分度器を正しく使い角度を読むこと

学校としましては、次のことに取り組んでいきます。

- ① 宿題やチャレンジタイムで基本的な内容の反復練習や基本的内容を活用した応用問題を繰り返し行うとともに、定期的・計画的にこれまで学習してきたことの復習を行い、定着の度合いを高めていくように努めます。また、漢字を含め、言葉の力を確実にして、文章を正しく的確に読み取る力を伸ばします。
- ② 図形に関することについては学年ごとに指導の重点として、系統性に留意した丁寧な指導と豊富な練習量の確保を行います。
- ③ 平素の授業においては、引き続き学習のめあてや振り返りを授業の始めと終わりに位置付け、児童が学びの成果を実感できるようにします。また、日常の事象を、算数の問題の中に取り入れるようにして、学習と日常生活を結び付けていきます。

5年生では「学習状況調査」もありました。いくつか参考となる結果は次のとおりです。

1	(1) 学校に行くのは楽しいと思う。						
	当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまら ない	当てはまら ない	無回答	肯定的回答	県との差
校内	66.2	24.6	6.9	2.3	0	90.8	1.3
県	57.1	32.4	7.6	2.8	0	89.5	

1	(2) 自分には、よいところがあると思う。						
	当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまら ない	当てはまら ない	無回答	肯定的回答	県との差
校内	42.3	43.1	10.8	3.8	0	85.4	1.1
県	42.9	41.4	10.4	5.3	0	84.3	

2	(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます)。								
	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全くしない	無回答	1時間以上	県との差
校内	6.2	14.6	26.9	35.4	14.6	1.5	0.8	47.7	-5.3
県	8.1	12.5	32.4	30.9	11	5.1	0.1	53.0	

2	(20) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム機やスマートフォンを使ったゲームも含まれます）をしますか。								
	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	1時間より少ない	全くしない	無回答	2時間未満（全くしない含む）	県との差
校内	20	16.9	16.2	29.2	11.5	4.6	1.5	45.3	-3.2
県	18.2	13.4	19.8	25.4	16.9	6.2	0.2	48.5	

2	(21) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか (携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます)。									
	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	携帯電話やスマートフォンを持っていない	無回答	2時間未満（持っていない含む）	県との差
校内	11.5	9.2	13.8	16.2	8.5	17.7	22.3	0.8	64.7	-3.8
県	11.2	8.4	11.7	15.5	12.5	15.4	25.1	0.1	68.5	

3	(26) 国語の授業の内容はよく分かる。									
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	無回答	肯定的回答	県との差			
校内	48.5	36.2	13.1	1.5	0.8	84.7	-2.2			
県	45.7	41.2	9.9	3	0.2	86.9				

3	(27) 算数の授業の内容はよく分かる。									
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	無回答	肯定的回答	県との差			
校内	41.5	34.6	17.7	6.2	0	76.1	-8.4			
県	51.3	33.2	11.1	4.3	0.1	84.5				

3	(28) 英語の勉強は好きだ。									
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	無回答	肯定的回答	県との差			
校内	63.8	23.1	9.2	3.8	0	86.9	16.3			
県	40.3	30.3	18.2	11.1	0.1	70.6				

3	(29) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。									
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	無回答	肯定的回答	県との差			
校内	20	42.3	30	7.7	0	62.3	-8			
県	24.4	45.9	22.3	7.2	0.1	70.3				

- ・学校には楽しく通うことができている、自己肯定感が高い児童が多い。
- ・家庭学習時間が1時間以上できている児童47.7%と昨年度より20ポイントも低下していましたが、ただ、6月の校内調査では53.8%と県平均並みには回復していますが、昨年度の状況には及んでいません。家庭学習の在り方や内容、意義を引き続き検討していき適切な家庭学習ができるようにします。
- ・スマートフォンやゲーム機でゲームをする時間、SNS等に費やす時間はほぼ県平均と同等でしたが、

4 時間以上費やす児童の割合は若干ですが県平均を超えており、長時間化が懸念されます。

- ・ 学力調査結果と連動するように「算数の授業の内容がよくわかる」とする率が県平均より 8.4 点低かったことから、一人一人の課題に応じた授業を工夫する必要を感じています。
- ・ 英語の学習が好きな児童は 86.9%と大変高かったです。